

イチゴ栽培管理技術の習得と 適期作業の実践による収量の確保

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

Y氏は農業大学校就農科を卒業し、令和3年から900㎡のハウスで少量土壌培地耕によるイチゴ栽培を開始されました。農業大学校で栽培技術の基礎は習得されていましたが、一人で管理することは初めてであり、導入する品種特性に合わせた管理が必要でした。

そこで、就農計画の目標収量が確保できるよう、栽培技術の習得と適期作業の実践に向けて支援しました。

【普及活動の内容】

(1)年間の作業計画策定

ハウスの建設が遅れたこともあり、育苗ほおよび本ほにおける栽培管理のポイントを記したチェックシートを提示し、1年間の栽培スケジュールを立てるよう助言しました。

(2)品種特性に応じた栽培管理の実践

育苗ほにおいて、苗数確保のために、親株の栄養状態の目安を説明するとともに、育苗期間の灌水回数や量を培土の状態に合わせて判断したり、生理障害や病害虫の発生を自ら識別できるよう指導しました。

定植前には、品種ごとに花芽分化の状況を検鏡し、情報提供しました。定植後は、ハウス内の温度・湿度管理、摘果の判断や、草勢維持のための養液管理を助言しました。

(3)春以降の栽培管理の適期実践

春以降は、気温の上昇に伴いイチゴの生育が旺盛となり、かつ各種病害虫が発生します。そこで、適期の葉かき、ランナー除去および生育に応じた肥培管理を行うよう助言するとともに、病害虫防除時の注意事項(病害虫の確認方法、薬剤選定、散布方法など)を助言しました。



写真1 病害虫の確認方法と防除を指導

【普及活動の成果】

ハウス建設が遅れたことにより、年内収量は少なめでしたが、春以降の栽培管理作業を適期かつ確実に実践された結果、目標収量より24%増の3.4t/10aのイチゴを出荷されました。販売は庭先直売と市場出荷を併用されましたが、庭先直売が好調であったことから、販売金額は計画の約2倍に伸びました。

栽培2作目は、適期に定植作業が行われ、順調に生育し、収穫が進んでいます。1作目を上回る収量確保に向け、今後も支援していきます。

◎対象者の意見

現地で指導をいただき、病害虫防除や肥培管理などを適切に行うことができました。収量も確保でき、喜んでいます。(Y氏)